

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1361号 令和元年7月15日

7 月 号

	ウイグル人の生体臓器を売買する中国 ……………本紙編集部…… 1
続報	圓滿院乗っ取り事件 その後 …………… 2
	ウクライナ問題に新局面 …………… 3
	令和時代の一万円札の顔 渋沢栄一が重んじた「公」 …………… 4
	「戦闘」と「戦争」の区別について考えよう …………… 5
	ドイツ カトリック教会に大激震 …………… 5
	日本の引きこもり人口は、200万以上か!? …………… 6

本 社 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 2-5-24-103
電話・FAX (03)5313-0215
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
主幹・編集長/谷田 透

ウイグル人の生体臓器を売買する中国

本紙編集部

G20の場外で驚愕のニュースを聞いた。

六月二十八日の大阪では、ウイグル人の「反中共」に命を懸けているメンバー五十名が集会を開いた。ラビアカーディル女史も先頭に立ち、メンバーたちは香港民主活動家たちや日本人支援者たちとデモ行進も行った。

実は非公開の席では、中共が強引に進めているウイグル人の強制収容所に関する驚きの裏話が出ていた。ウイグル人は、ある日突然中共の警察や公安によって逮捕される。逮捕理由などすべて捏造のものだが、逮捕されると血液検査などの医療チェックを受けることになる。そして強制収容所に送られるが、そこで突然、収容者の何名かがピックアップされて行方不明になる…ここまでは我が国のマスコミでもネットでも、ある程度は書いている。

それらピックアップされた収容者は、病院に直行して移植用の内臓を抜き取られるという。専用パックに保存された臓器は、サウジアラビアに空輸される。中共の国家的犯罪商売なのである。

サウジではイスラムの戒律が厳しく、移植する臓器が「厳格なイスラム教徒のものでなければならぬ」と決められている。一度でも肉を食べたことのある人間の臓器は穢れており、それを移植すればサウジの金持ちも穢れるのだと言う。



ウイグル人の腎臓や肝臓を中共とサウジの間で売買し、それに関しての直訴を受けたのがトルコ、イラン、ロシア、アメリカだったらしい。イランの秘密警察や革命防衛隊などの関係企業も関与している疑いがあり、世界一の金持ちイスラム国家が主導し、世界一の守銭奴国家中国が実行部隊となった「世紀の悪事」は、もしG20の席で話題が出たら世界が激怒することになっていただろう。

現在、「ホルムズ海峡波高し」の原因は、この問題を知っている国家の正義感から発したものである可能性がある。

イランの革命防衛隊は最早巨大になりすぎて、各国に出先の企業を多く持ち、金儲けのためならイスラムの戒律など関係ないという連中が増えた。ハメネイ師の命令すらどこ吹く風らしい。それがサウジの傭兵部隊と意思を通じているようだとい前から言われていたが、どうやらアメリカもそのように見ている。

二十世紀の間に積もり積もった矛盾は、どうすれば清算できるのか。国連にもサミットにも、その能力も気概も無い。そんな無力なセレモニーであっても、せめてG20が成功したことで、ウイグル人が中共によって虐殺され臓器を売り飛ばされる悲劇は、地球上から一掃する必要がある。

皇室と縁のある「門跡（もんぜき）寺院」について、大半の人は知らないようだ。学校教育で教えないのだから当然かもしれないが、歴史と権威は大きいものだと強調しておきたい。

天台宗の寺門派の本山は園城寺（三井寺）であり、その別院として隣接する「圓滿院」が今回の乗っ取りの舞台である。小紙五月号でもこの問題を取り上げたが、今回はその続編である。

六月二十日に大津地裁で、圓滿院の内部紛争の公判が開かれた。小紙は傍聴に駆けつけたが、そこで当事者たちの証人尋問で語られる内容に驚いた。

法廷で証言すれば、虚偽内容なら偽証罪が適用されるため、証人出廷した者たちは本人が真実であると信じる内容を話しているはずなので、いくつかの証言をピックアップする。小紙が誇張しているのではなく、言い回しをいくばくか解りやすく編集しているに過ぎないという事を、あらかじめ断っておく。（文中敬称略）

当日出廷していたのは、圓滿院責任役員総代と自身で紹介した小泉と、同じく代表役員住職だという岩本など、乗っ取りグループが勢揃いした。小泉と岩本は背広姿であり、僧侶の姿で出廷していたのは「圓滿院で得度を受けた」と言っ坊主をアピールしながら、小泉から月給で雇われている労働者に過ぎないような「にわか坊主」である。得度を受けて受戒すれば、出家か在家かを問わず「坊主」であるが、誰にそれを授けられたかは重大な意味を持つ。似非坊主から得度を受けても、それは仏教の世界で意味を持つものとは思えないからだ。



乗っ取られた
圓滿院門跡の豪華パンフ

まず最初の証人尋問はリーダーの小泉で、それによると圓滿院から借金相談を受けて関係が出来たそうである。大岡寺（だいこうじ）を利用した競売での資金は、千葉の某金融会社から出資を受けたもので、圓滿院の東伊豆別院と相模湖別院を売りたばせば返済できるという約束で引ったたきと言う。ところが返済できず、先日千葉地裁で、貸金返還訴訟を打たれて敗訴し、二十数億円を返済できるまで圓滿院の不法占拠状態だと言う。

東伊豆別院も相模湖別院も、坊主ではない会社が所有権登記していたと言うが、北海道別院は圓滿院の主たる事務所として登記しており、借金が焦げ付いた時の逃げ道を作っておいたのかと邪推してしまう。

千葉の某金融会社というのも小泉グループと同様に、天台宗寺門派の満得院の責任役員になっていて同じ穴のムジナらしい。

この借金問題が質問されると、小泉は顔を紅潮させて「関係ないから答えない」と大声で喚び、裁判長から注意を受ける場面もあった。どうやら圓滿院の借金問題は、小泉グループにとって計算違いの方向に進んでおり、これがアキレス腱になっているようだ。東伊豆別院には二、四三四体の納骨があり、坊主がいれば商売になり高値で売れると計算していたが、千葉の某社からは「満得院は坊主が五十人登録されているから、何人か回してやる」と話があったようだ。実際には相模湖別院も抱き合わせで売りたばす計画にいたので進んでいないらしい。

圓滿院の役員会というのは、小泉と岩本で好き勝手に決めているようだが、宗教法人法では決して許されない話がここでは普通に通用している。

大岡寺が圓満院の抵当権を設定したのは平成二十年で、大岡寺そのものも金に困っていたので千葉の某社から金を借りたが、「別院を売れば返せる」と言われたという。大岡寺にも抵当権を付けたが、それは小泉の会社である。つまり、大岡寺と圓満院の抵当権は小泉と千葉の某社がグルになってハイエナ商売を計画したものらしい。

小泉に雇われている圓満院の坊主は、月給十五万円で生活も出来ないと言法廷で話していたが、所詮にわか坊主の愚痴であり、同情に値しない。

小泉グループは役員会で、雇っている坊主たちが圓満院を乗っ取る計画を持っている

ウクライナ問題に新局面

ウクライナで四月に行なわれた大統領選挙では、反ロシア以外に何の政策も無いポロシエンコを見限った国民が、コメディア出身のゼレンスキーを七二%もの得票率で新大統領に選んだ(写真)。ポロシエンコは汚職にまみれ、国内のマフィア組織の操り人形となり、先進国に留学生という名の「反ロシア宣伝隊」を送っていた。日本にも数人のメンバーが大学に留学しており、右翼の集会に積極的に参加して本国に報告を送っていたが、



関西のある留学生は「バイトも出来ないし報酬もくれないので、生活が苦しい」と本音を語っていた。ウクライナのポロシエンコ政権は、それほど腐っていたのである。

この大統領選挙の直後にロシアのプーチン大統領は、ウクライナ東部の独立派が支配する地域の住民たちに「希望するならロシアのパスポートを発行してやる」と宣言した。

これに対して、ロシアと良い関係を築こうとしていたゼレンスキー新大統領も怒りを表明し、「ロシア国籍を欲しがる者は、ウクライナの司法から逃げようとする者だ」

るかもしれないと疑っていたが、自分の考えることを相手も同じように考えていると思うのは詐欺師の常であり、疑心暗鬼の末にはノイローゼになるのだろう。

今回の公判で判明した重要なことは、有名寺院も借金まみれであり、詐欺師や乗っ取り屋に常に狙われていること、圓満院の現在のオーナーは千葉の某社に替わっており、小泉は不法占拠状態であることが明らかになったことである。

「門跡寺院」を守ろうと言うことは、皇室の権威を守ろうということに近い。この圓満院の問題は、我々が真剣に考えなければならぬ問題の一つだと言えるだろう。

とプーチンの宣言に噛み付いた。「これからウクライナは自由で民主的な国に変わる」という自身の選挙公約を、プーチンが踏みつけて恥をかかされたということである。

既にウクライナのクリミア地方では、黒海に面したりゾート地にはウクライナから脱出してきた富裕層と、出稼ぎのまま居ついているウクライナ人たちが百万人を超える勢いとなって混在し、東部のドネツクやルガンスクなどを合わせればウクライナは国家が分断されているのと同じような状況にある。

ウクライナの構成民族は、ウクライナ人、タタール人、ロシア人などがあり、言語も分かれている。それを一括して国家統治するためには、今まではEUに頼り切って西側諸国の一員という顔をしていれば良かったし、ソ連時代に構成された秘密警察崩れのマフィア組織も、極東のウラジオストクなどで悪事の限りを尽くせば良かったのだが、アメリカがトランプ政権になってからはEUもウクライナ問題を重荷に感じるようになり距離を置き始めていた。

多くのウクライナ人たちはマフィア組織やEUとは無関係だが、それらが選んだコメディアン^①のゼレンスキー新大統領は、既

得権益を持っているマフィアが怖くて改革を進められていない。そんな状況下でプーチン大統領が「希望者にロシアのパスポートを発行」という政策を打ち出したということは、「ロシアは気が短いぞ」と脅しをかけたようなものだ。

令和時代の 一万円札の顔 渋沢栄一が重んじた「公」

近代日本の資本主義の父と呼ばれた渋沢栄一については、ここで小紙が紙面を割くまでもない。既に多くの雑誌が特集を組んで、彼の人となりや偉業について語り尽くされている。その偉大な渋沢栄一であるが、彼が令和時代の一万円札の顔になったことには意味がありそうだ。

彼は武蔵の国で百姓の長男として生まれたが、官尊民卑に憤り、時の尊皇攘夷運動で天下が混乱する中を江戸に出て千葉周作道場に通い、徳川慶喜の知己を得ることになる。



渋沢栄一

慶応元年にパリ万博に幕府から派遣されている間に大政奉還があり、急遽帰国して株式会社を立ち上げる。それに驚いた明治政府が彼を民部省の税務トップとして招聘、彼は辣腕を振るって大活躍する。

彼は「公」を最も大切に考え、「私」だけが儲かれば良いとする考えを卑しいものとして拒絶した。だから、彼の暮らしぶりは清貧だったと言われる。国家社会のためになるならと、貧しい所にも産業を興し、五百社以上の会社を設立した。朝鮮や満州にも多くの産業を興し、貧しい現地に雇用を生み出した。

そんな渋沢栄一と対極にあり、彼が最も卑しい人間と蔑んでいたのが、三井財閥の岩崎弥太郎だったそうである。

岩崎は、土佐で坂本龍馬と竹馬の友だった関係から、一緒に長崎へ行つてジャー

我が国にも既に「クリミヤ友人の会」がロシアの後援で結成されており、ウクライナ問題は日本と無関係な話ではなくなっている。その割に、マスコミの取り上げ方が少なく、しかも偏っているのは、情けない我が国マスコミの弱腰が原因なのである。

デンマセソン商会の極東支配人グラバーに取り入り、我が国最初の会社である亀山社中を設立して、武器商人として日本中の勤王佐幕の両陣営に鉄砲を売りさばいて巨万の富を得、それを明治維新の種銭として「政府の黒幕」になったのである。



岩崎弥太郎

岩崎の逸話が多いが、例えば生野銀山を明治政府が三菱にタダ同然で払い下げると決めた時に、一度政府の所有にして明治天皇のものとなつてから百倍の値段で買い取ると言ったそうである。それは、明治天皇のものとなれば菊の御紋が入った政府の門柱が建てられるので、いくらでも採掘できる銀よりも、菊の御紋が欲しかったのである。この門柱は今でも残っているが、岩崎の「三菱が日本国家である。三菱が天皇を支えている」という自負をよく表わしている。

岩崎の三菱は、明治政府の富国強兵と共に巨大化し、企業グループの私益だけを一直線に追求する「和製ユダヤ」として経済と金融を支配する。

これに真っ向から反対し、公益こそ日本国家の最重要課題だと訴えていたのが渋沢栄一だったのである。

この渋沢栄一が令和時代の一万円札の顔になるということは、財務省のしかるべき立場の人たちが三菱のやり方や岩崎弥太郎の経歴を快く思っていないと見て間違いなさそうだ。

令和になって、我が国が明治維新の呪縛から解放されて、三菱を国家的企業として尊敬する風潮を正し、もう一度「公」を大

「戦闘」と「戦争」の区別について考えよう

日本海海戦とかミッドウエー海戦など、純粋に軍人同士が直接対決するのが「戦闘」である。ところがこれが「戦争」になれば、本土決戦とか首都空爆などの大規模な虐殺が行われることになる。これは好むと好まざるとに拘わらず、一般民衆の上に爆弾が落とされ、上陸部隊は「解放」の美名で誤魔化した射撃を行なう。歴史的にも、洋の東西や国家民族を問わず、必ず行われている。当然、我が国も本意ながら同様の行為を行なった経験がある。

敵対する政府と軍隊だけを相手に、一般国民は本意でも勝った方の国家に従うというような原始的侵略戦争をすれば良いのだが、現実には民衆を人質として戦争は行なわれている。

我々は過去「ベトナム戦争では、結局アメリカが敗北したのだ」などと教えられたことがあるが、実はそうではない。ベトナムはアメリカの空爆を受け、村を焼き尽くされ、多くの一般民衆がアメリカ兵によって殺されている。ベトナムが一度でもアメリカ本土に乗り込んで一般アメリカ人を虐殺したのなら互角の戦争だろうが、一方的にベトナム人が虐殺されて、それでもベトナムが降参しなかったからアメリカ側に厭戦ムードが高まり、とうとう国内世論に政府が動かされ、やむなく停戦になっただけの話である。ベトナムは戦争で一方的にアメリカから攻撃を受けたのであり、決して互角の戦闘を両国間で展開したのでは

切な基本として見直す流れが生まれることを切に願うものである。

ない。

これが戦争である。悲惨で卑怯で、どうやって終結すべきかも決められないのが戦争であり、時の氏神としての仲裁者がなければ、どちらかが一方的に完膚なきにまで叩きのめされて物理的に終結するのである。勝つか負けるかの極致が戦争である。

現在の自衛隊は「戦闘」においては世界でもトップクラスの実力を持ち、能力だけでなく気概も訓練も高い。しかし、勘違いするエリート防衛官僚は、「戦闘」に強いことから「戦争」になっても大丈夫だと考える。現場の自衛官の中にも「戦闘」と「戦争」の区別がつけられない者が居る。それらと同調する在野の一般人団体が歩調を合わせると、「日本はいつでも戦争に勝てる」ことを最上の国家目標と考えてしまうかもしれない。



軍人同士が武器の使用で対決し、作戦と兵器性能と兵の能力によって勝敗を決める「戦闘」ならば、日本はいつでも受けて立つが、「戦争」に発展してどちらかが相手国の一般人を虐殺する事態は何が何でも避けたい…と素直に言える政府および防衛官僚であってほしい。

我々も「戦争には反対する。理由はこうだ」と宣言できる強さを持ちたいものである。

ドイツカトリック教会に大激震

ドイツのカトリック教会で五月に大規模な女性信者によるストライキが起こった。これは女性にも聖職者の道を開くべ

きだという主張のもので、バチカンも深刻な問題として受け止めている。

ドイツのカトリック女性信者の二つの

連盟は、五月十八日に声明を発表した。その中で、カトリック界では聖職者による未成年者への性的虐待事件が後を絶たないこと、教会が権力構造になっていること、聖職者の独身制度は問題であることなどを提起した。

これに対してカトリック保守派は激怒し、女性を聖職者にする権限を教会が持つていないし、それはイエスが決めたことだと主張する。その根拠は、元ローマ法王のヨハネ・パウロ二世が一九九四年に発表した「使徒的書簡」に反するからだと言う。

カトリック教会が女性蔑視なのは事実であり、これを覆すためには神学論争にまで遡らねばならなくなる。人類の原罪は、墮天使ルシファーに騙されて「羞恥

心のリング」を食べたイブという最初の女性の行動による。この「失樂園」を信じるカトリック教会が、女性を男性と同等に扱う理由がない。

「聖母マリアは原罪を持たない」と訴える者たちは、原罪を持ったマリアから生まれたのであればイエスも



原罪を持つと主張する。女性は原罪を持つのかという問題が、女性解放運動の最初のテーマであったことを考えれば、今回のドイツでのカトリック教会女性信者ストライキは、カトリックという信仰にとって巨大な意味を持つものであろう。

日本の引きこもり人口は、二〇〇万以上か!?

内閣府の調査で、四十歳から六十五歳までの引きこもり人口は六十一万三千人と発表された。

いわゆる「八〇五〇問題」（八十代の親が五十代の引きこもりの子を扶養する問題）は厚生労働省だけに任せておけない深刻なことだと、一般国民も気付き始めた。これに予備軍も加算すれば、引きこもり人口は百万人を超えるだろうと容易に想像できるし、この現象は今後も同様のペースで進んでゆくとすれば、いずれ日本が行き詰まるのは明らかだ。

しかし、今回三十年前から引きこもり問題に取り組んできた筑波大学の斉藤環教授による調査結果が示され、そこには「調査した当事者の八十%が男性だった」ことが明らかにになった。とすれば、実際には女性当事者の八十%が調査対象に



なっているかどうかということであり、家事手伝いなどと世間体を気にした回答で調査対象から外した女性を加えて計算すれば、総数は二百万人を超えるかもしれないということになる。

年金生活の親たちは死んでゆくのだから、いずれ引きこもりの子どもたちは路頭に迷って野垂れ死するかも知れない。おそれながら、我が国政府の福祉政策がその子らを救い取るセーフネットを備えているとは思えない。推定だが、実数二百万人というのは深刻な脅威と断言できる。

地方本部活動報告

■関西本部

◇六月二十一日（金）

・午後六時半より、尼崎市内において「むすびの集い」勉強会。党员、有志計五名参加。資料は「令和時代の我々の運動について」ほか。